

週間市場レポート (2021年10月18日~10月22日)

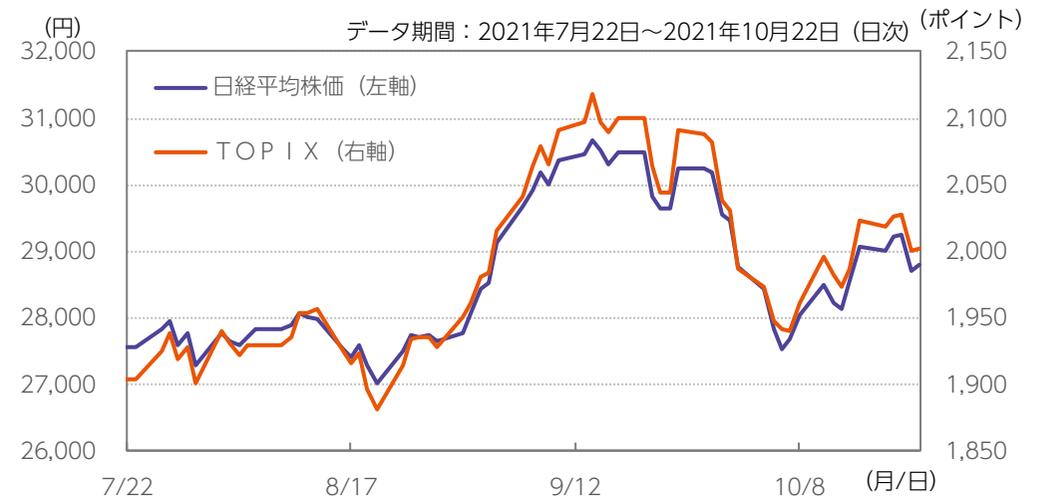
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2021/10/15	先週末 2021/10/22	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		29,068.63	28,804.85	▲ 0.91 ↓
TOPIX (東証株価指数)		2,023.93	2,002.23	▲ 1.07 ↓
ダウ工業株30種平均 (ドル)		35,294.76	35,677.02	1.08 ↑
S & P500種指数		4,471.37	4,544.90	1.64 ↑
ナスダック総合指数		14,897.34	15,090.20	1.29 ↑
ユーロ・ストックス50指数		4,182.91	4,188.81	0.14 ↑
S & P/ASX300指数		7,369.82	7,423.15	0.72 ↑
上海総合指数		3,572.37	3,582.60	0.29 ↑
MSCI AC アジア (除く日本)*		1,000.84	1,014.00	1.31 ↑
東証REIT指数		2,094.92	2,067.91	▲ 1.29 ↓
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		887.02	908.55	2.43 ↑
ASX300 REIT 指数		1,623.90	1,670.50	2.87 ↑
グローバルREIT (除く日本)*		210.85	214.37	1.67 ↑
日本10年国債 (%)		0.083	0.097	0.014 ↑
米国10年国債 (%)		1.570	1.632	0.062 ↑
ドイツ10年国債 (%)		▲ 0.167	▲ 0.105	0.062 ↑
英国10年国債 (%)		1.106	1.145	0.039 ↑
ドル/円		114.22	113.50	▲ 0.63 ↓
ユーロ/円		132.52	132.18	▲ 0.26 ↓
英ポンド/円		157.08	156.12	▲ 0.61 ↓
豪ドル/円		84.79	84.76	▲ 0.03 ↓
フィラデルフィア半導体指数		3,314.41	3,370.28	1.69 ↑
WTI原油先物 (ドル)		82.28	83.76	1.80 ↑
CRB指数		239.27	237.68	▲ 0.67 ↓

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で小幅に下落しました。前週末に2営業日で900円超上昇していたことから利益確定の売りもあり、週初は3営業日ぶりに小幅に下落しました。その後は、米長期金利の上昇がやや一服したことや、国内の新型コロナウイルス新規感染者数の減少を受け、経済活動の正常化が一段と進むとの期待などから2日連続で上昇しました。週末にかけては、原油価格の上昇などを背景に米長期金利が再び上昇したことや、月末の衆院選で与党・自民党が議席数を減らす可能性があるとの報道から、国内の政治をめぐる不透明感が強まり、売りが優勢となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。原油高などを背景とした世界的なインフレ加速懸念が早期の利上げを後押しするとの見方から、米国や欧州で金利の先高観が根強く、国内金利も上昇基調となりました。一方、日経平均株価が下落する場面では、相対的に安全資産とされる債券は買われ（利回りは低下）、週間では横ばいとなりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

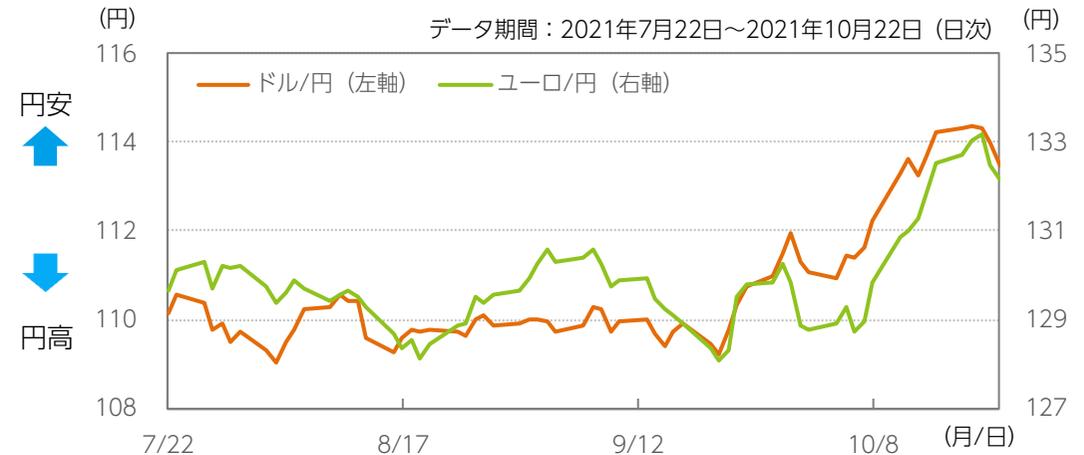
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で上昇しました。7-9月期の決算発表が本格化する中、好業績が期待される銘柄を中心に買われました。一方、米長期金利が上昇する局面では、相対的に割高感が意識されやすいハイテク株やグロース（成長）株が売られたことから、上値は限られました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。米国の金融政策の正常化が早まるとの見方や原油高を背景に米長期金利が上昇し、日米の金利差拡大を意識した円売り米ドル買いが優勢となりました。前週より、急ピッチで円安米ドル高が進んでいたことから、週末にかけて円を買い戻す動きもあり、週間では円高米ドル安となりました。



5) 今週の見通しについて

先週の国内株式市場は、衆院選を控え国内政治をめぐる不透明感などから週末にかけて売りが優勢となりました。米国株式市場は、好業績銘柄を中心に買われたものの、金利上昇が重荷となり上値の重い展開となりました。多額の負債を抱える中国の不動産大手・中国恒大集団は、23日が猶予期限となる米ドル債の利息の支払いを実施しました。資金を調達するため、資産の切り売りを進めているものの、同社の資金繰りは依然厳しく、デフォルト（債務不履行）の回避は不可避との見方もあることから、今後の金融市場への影響が懸念されます。

今週は米大手企業の決算発表を控えており、好業績への期待から買われる展開となりそうです。しかし米長期金利は上昇基調にあり、引き続き割高感が意識されやすいハイテク株やグロース株などを中心に売られることが予想され、上値を抑えることとなりそうです。一方、国内株式市場は、月末に衆院選を控え様子見ムードが高まる中、動きにくい展開が予想されますが、米長期金利の動向によっては、大きく上下に振れる可能性もありそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>